

食物三徳御書

弘安元年 五七歳

たからとす。山の中には塩をたからとす。魚は水を^親をやとし鳥は木を家とす。人は食をたからとす。かるがゆへに大 王は民を^親をやとし、民は食を天とす^書とかゝれたり。食には三つの徳あり。一には命をつぎ、二にはいろを^色まし、三には力を^添そう。人に物をほどこせば我が身のたすけとなる。譬へば人のために火をともしれば我が^前まへ^明あきらかなるがごとし。悪をつくるものを^養やしなへば命をますゆへに気ながし。色をますゆへに眼にひかりあり。力をますゆへに、^足あしは^速やくて^手きく^利。かるがゆへに食をあたへたる人、かへりているもなく、^弱気もゆわく、^報力もなきほうをうるなり。

一切経と申すは紙の上に文字をのせたり。譬へば虚空に星月のつらなり、大地に草木の生ぜるがごとし。この文字は釈迦如来の気にも候なり。気と申すは生氣なり。この生氣に二あり。一には九界